

2023（令和5）年度市政懇談会 開催結果概要

- 日 時 令和5年7月10日（月）午後2時00分～
- 会 場 若草会館
- 参加者 10人

〔市長より説明（別途資料参照）〕

- （1）釧路市の防災の取り組みについて
- （2）市立釧路総合病院の新棟建設事業等の進捗について
- （3）都心部まちづくりについて
- （4）町内会への取り組みについて

●質疑応答

【参加者A】

津波対策につきまして、先ほどLINEについて紹介されていましたが、私はLINEを入れていません。実際に発災した際にはエリアメールなど来るのですか。

【防災危機管理課長補佐】

Jアラートと言いまして、国から発信されるお知らせでしたら携帯から受け取れます。

【参加者A】

私は三沢市に居たことがあり、実際に東日本で発災した際に居ました。現地で感じたのは、発災してから1週間電気が来ず、1か月くらい10リットルのガソリンしか給油できないという状況でありました。その時に思ったのは、八戸にはコンビナートがありますが、精製する機材が壊れ、関東地方から陸送していた現状でありました。釧路にもコンビナートはあるのですが、発災時に釧路のコンビナートが壊れた場合、どのように対応するのですか。

【市長】

広域で、連携を取っていく形になります。北海道は日本の面積の5分の1あり、北海道全体が被災することはなかなかないであろうと思います。例えば石狩や、太平洋側の苫小牧などと連携をとり、食べ物などの備蓄について、在庫量を確認しながら、連携を取り進めているところであります。

【参加者A】

現在、釧路の精神科は不足しており、帯広に通院しているとか、待機が2,000人いるという現状ですが、その対策は講じられるのでしょうか。

【市長】

精神科の問題は重要なことでありまして、北海道と手法を相談している所です。北海道全体の中では、北大と札幌医科大学と旭川医科大学の3つの医育大学があります。その中で様々な公立病院に医師を派遣頂いたり、研修を

行ったりしています。釧路においては、通常時でも医師不足で大変な状況の所でしたが、民間の2つの精神科外来が停止するなど、大変な状況になってしまっているところです。こういった対応をとるのか、今いる先生方にもご協力いただき進めておりますが、どうしても時間がかかります。精神科となりますと、例えば話を聞くだけで、最低でも30分、通常時で1時間かかります。1日に診ることができる人数に限度があるという事もあり、北海道からどのような対応をしてもらえるのかなど具体的な話をしている所でもあります。

【参加者A】

釧路市プレミアム付商品券について、何枚売れたのか、完売したのかなどの結果はどこかで示されたのでしょうか。

【総務部長】

一昨年実施された釧路市プレミアム付商品券については、20億円の予算に対して18億3千万が決算見込であり、執行率は9割程度となっております。

【参加者A】

釧路市では千円単位で商品券を作っていましたが、三沢市では500円単位で、3日ほどで完売していました。個人が千円でものを買うのか、500円でものを買うのかといったときに、千円ではハードルが高い、しかし500円だと使いやすいので、使い勝手の面で三沢市は完売したと考えます。釧路では余りがでて、2次募集・3次募集を取られていたため、今後実施する場合は検討していただきたい。

【総務部長】

券の単位については様々な意見をいただいております。500円の方が使いやすいという意見ももちろんありましたが、この商品券の趣旨が、お店の応援という事で、500円の所を千円使っていただくなど、出来るだけ消費して頂きたいという思いもありました。応援の意味での商品券であったところですから、あまり細かくすると普通の消費にかわってしまうという所もあり、プラスアルファの消費もお願いしたいという事で、千円単位にさせていただいたものであります。ただ、そのような意見もありまして、今後もし同じようなことをやる時には、再度検討しなければならないと思っております。

【市長】

他の自治体が行っていることの情報収集しながら、その時々で必要な対応を行うことが柔軟な対応だと思っておりますので、今回のご意見も記録に残し、しっかり考えていきたいと思っております。

【参加者B】

地区会館の整備のお話があり、ありがたいのですが、建物も古くなっており、修理して急場をしのいでいる状況です。改築等するのは難しいと思いますが、若草町の住民は高齢化が進んでおり、遠くに建てられると移動が大変になってしまいますので、改築する際には、できれば現地改築にしてほしいというのが住民の要望です。ここで発表出来ないかもしれませんが、お話があればお聞かせ願いたいと思います。

【市長】

地区会館をどういった形で進めていくのかは、大きな課題となっております。特に老朽化していく中で、釧路市としても公有資産マネジメントということで、今あるものをどのように活用しながら進めていくのかというお話になります。釧路市の人口のピークは約22万人で、その際、人口が25万人になることを想定して様々な整備を行いました。しかし、現在、人口が16万人を切った中で、現状を維持しようとするすると若干負担が大きくなります。例えば、道路や下水です。道路だけでも約1,260キロ、下水が約1,480キロ、水道が約1,160キロあります。地区会館もそうですが、高齢者施設が11施設、児童館の数も全道一あるのが釧路市であります。こういった中で、どのように進めていこうかという相談を町内ともしていきながら、第一号となったのが、貝塚の地区会館と児童館を複合化した緑ヶ岡・貝塚ふれあいセンターです。こういった中で、どのように進めていくかと相談していくことは大きなポイントであり、一律に何をどうしましょうという風にはいけないと思っています。こういったことは、どこでどのようなことができるのかをしっかりとご相談して、進めていくものでありますので、地区会館をどうするかというよりは、全体を見てご相談しながら進めていくことになるかと思っています。

【参加者C】

今も使用しているテーブルですが、最近では高齢化で座ること自体が非常に困難です。最近では椅子使っているのですが、できれば高いテーブルを建物の改築より先に何とかして頂ければと思います。

【市長】

これも何かいい方法はないかと思っております。釧路市として進めているものの一つに地産地消があります。釧路市の中小企業基本条例でも触れておりますが、域内循環、つまり地域の中でいろいろな形を進めていくというものです。今、地元の木材などを使っていこうと進めております。役所などでは、予算を組み、単年度で物事を行っていくため、例えば、学校の机や椅子は既存のものを買うしかありませんでした。また、地元で作ってもらうと既存のものを買うよりも値段が高くなってしまいます。そこで、地元の木材を扱う業者と相談し、7～8年の時間軸ですべての学校の机と椅子を地元の木材を使って作った時に、いくらになるのか。時間がある際に作っていただき、製作いただいた分については全部買い取るとしたときに、既存の机や椅子を買った時と同じ金額で

は製作いただけないかと相談したところ、既存のものと同じ金額で製作いただけることになったものでございます。ですから、釧路市内の学校の机と椅子は全て地元の木材を使用したものとなっております。

また、市では就労支援というものも行っており、例えば生活保護の方々に、少しでも働いていただくために、「くらしごと」という所で、漁網の作成などしております。町内会のゴミのネットなども、就労支援という形で、少し時間かかりますが作ってもらうなど、やり方は様々あるかと思えます。予算は単年度主義でやっていくものですが、複数年、全体をどうするのかという仕組みを作れたらと思えます。その辺を会館の運営協議会などで確認していければと考えております。

【参加者A】

郊外を走っているとき、今朝だけで鹿が2回ほど道に出てきました。44号線はよく対策をしていて、3メートルの網を付けています。網をつけているところには出てこず、過ぎたら出てきますが、そのあたりをどう考えているのでしょうか。特に阿寒湖に向かう道で鹿が出没する場所は決まっていますので、整備してもらいたいです。

【市長】

鹿対策につきましては、米町や鶴ヶ岱公園に出没するなど、市街地まで鹿が来ており困っております。昭和57～8年頃、北海道ではメス鹿を撃たないと決め、その結果全道で最大で77万頭になりました。直近の資料では令和3年度69万頭と言われております。

その中で、様々な対策を講じられているところでありますが、エゾシカ管理の行政の権限は北海道という事になりますので、鹿を見た際には北海道に情報共有しております。また、市街地の場合には撃つ訳にもいかず、電柵や有刺鉄線等も、人身事故につながる可能性もありますので、苦慮しながらも北海道の囲い罫等で対応していただいているところでございます。

国道240号については、阿寒から阿寒湖に向けてずっと柵をつないでおりますが、これからまた鹿が出てくる時期になりますと、道路全体に柵をつけていくのか等、苦慮しながら対策されてます。市では農地での駆除をベースに対策を進めており、市街地に出てきている部分については、北海道とも連携し駆除を進めてまいります。

また、熊対策について、熊は春に子供が生まれ、3歳ぐらいになると自分の暮してきたエリアから外にでてきます。春に冬眠中の熊を撃つ、春グマ駆除というものがあつたのですが、長い間実施されておらず、現在このように各地で熊が出没する状況になっております。そのため、昨年度から試験的に春期の熊の駆除が北海道の30か所程度で行われております。

釧路市でも、今年の6月9日から阿寒湖で熊が目撃され、2週間ほど大変な思いをしてきました。熊が火薬のにおいを恐れず、爆竹を使用しても、音には驚くものの火薬の匂いには反応しないということがありました。こういったことも含め、自然との共生という観点から、問題は出てくるものと思えますが、様々対応しようと思っております。

野生生物の関係では、駆除するものは駆除し、守るものは守るというような観点で進めていくことが重要と思っておりますので、鹿対策についても、お時間いただきますが、対応してまいります。